



平成 29 年 4 月 10 日

報道機関 各位

東北大学産学連携機構  
東北大学金属材料研究所  
東北大学未来科学技術共同研究センター  
東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社  
株式会社 Piezo Studio

**大学発ベンチャーPiezo Studio（ピエゾスタジオ）に  
東北大学ベンチャーパートナーズが出資**  
- 本格的 IoT 時代に必須の電子デバイス「高速起動ランガサイト振動子」等、  
各種 piezo 素子を製品化 事業拡大へ -

【概要】

東北大学金属材料研究所（金研）・未来科学技術共同研究センター（NICHe）教授の吉川彰らが設立した株式会社 Piezo Studio に東北大学ベンチャーパートナーズ\*1からの出資が決定しました。

Piezo Studio は金研・NICHe、電気通信研究所、工学研究科（電気）が培ってきた研究基盤を民間企業の製造技術と融合し、革新的な製品を創製することで人類の幸福に貢献するべく平成 26 年に設立されました。今回の出資を受け本格的 IoT 時代に必須のランガサイト振動子\*2を中心製品に事業拡大を実施します。

本格的 IoT 時代には多数の端末がネットワークを形成しますが、各端末の待機した状態から起動するまでの時間が長いとデータ衝突が多発し、送受信に支障をきたします。そこで Piezo Studio はこの問題を解決するランガサイト振動子を開発し、起動時間を従来の 1/10 に短縮することに成功しました。こうした Piezo Studio の成果により、将来的な市場拡大が期待され出資に至りました。

振動子に代表されるタイミングデバイス市場は今後 15 年で約 3000 億円の市場規模拡大が見込まれており、本製品は従来の振動子では満たしきれない市場ニーズに対応できることが最大の強みです。東北地域企業との連携により、かつて日本の独壇場だったタイミングデバイス市場の奪還・席捲を狙います。今後市場拡大が見込まれる自動車産業へも積極的に参入予定です。さらに医療用薬剤送達デバイス用、バイオセンサ用、次世代通信用の piezo 素子も順次製品化予定です。

東北大とのオープンイノベーションを技術基盤としつつ、地元企業における OEM 生産体制を整え、世界と地域を繋ぐコネクターループ企業として地域と共栄するビジネスモデルを採用しているのも Piezo Studio の特徴の一つです。

※1 文部科学省及び経済産業省認定の東北大学出資子会社。大学発ベンチャーへの支援・出資を行う。

※2 振動子はタイミングデバイスとして用いられる電子部品。世の中にある様々な電子機器が正常に機能するには、周辺のコントローラーとの連携（同期）をとる必要があります。一定間隔で安定した周期の信号「クロック信号」が必要。この基準となる一定周期のクロック信号を発生させているのが「タイミングデバイス」であり、電子機器が機能するために必要不可欠なキーデバイス。現在は主に水晶やセラミックスが使われている。Piezo Studio は新規ランガサイト型単結晶を用いることで高速起動化・低消費電力化・小型化に成功した。